

体操 1；座ったままする体操

- ✚ 首をゆっくりと、右に 8 回、左へ 8 回、回す。
- ✧ 自律神経系のバランス、および脳内血流量を調整する。
- ✧ リラックス、「話しを聞く・考える脳」ができる。

講義；

0. 世界システムの動向：

紀元前 5 世紀（都市革命・「軸の時代」） - 紀元 17 世紀（科学革命・マウンダー小氷期） - 紀元 22 世紀（再帰的近代化 and/or 「新しい中世」の本格化）

0.1. 1960s- 2050s グローバル化と成長軸の移動

0.2. カルティック・ミリュー（The Cultic Milieu. 文化の沸騰状態、混沌とした活気ある世界状況の中で、人々が科学技術と社会・文化・宗教を統合しようとする）

0.2.1. 1890s- 1910s の global なカルティック・ミリューと日本：

陸のアジアと海のアジアの結節点→海洋世界と陸上世界との結節点

0.2.2. 1600s-1850s の金沢におけるカルティック・ミリュー、管理貿易体制と参勤交代、

陸のアジアと海のアジアの結節点→海洋世界と陸上世界との結節点

0.2.3. 1950-1970s のアメリカ西海岸地域におけるカルティック・ミリュー、

IT 創生期の巨人たちの思想

- = 「脳—身体—環境」複合体としての人間を実現する物理的・理論的基盤が、  
パーソナルコンピュータによるインターネット・電脳空間の構築、
- = 「脳—身体—環境」複合体の実践的・実存的基盤が、Zen（禅）。

0.3. 再帰的近代化と「新しい中世」

0.3.1. 再帰的近代化

近代化＝近代化されていない事柄を近代化していく過程。

再帰的近代化＝近代化された事柄をさらに近代化していく過程。事例：国家・国民

（1890s-）、巨大企業（1920s-）、NGO・NPO(1990s-)が、現代社会を動かすエージェンシーとして登場してくる

### 0.3.2. 中世＝人的資源に対して物的資源が過小である時代

- 世界人口の爆発と資源の枯渇(21世紀後半、特に金属資源。食糧は対策が進んでいるし、海洋・宇宙開発はそのためにある))。
- 「ノマド - ヴァーチャル・ノマド - 定住民」への分化。
- 長い停滞の時代。
  - →どのようにしてこれを阻止、あるいは持続可能な開発へ結びつけるか？
  - ☆ そのような開発を可能にする社会・分化的基盤であるカルティック・ミリューをどうやって作り出すか。
  - ☆ 「金沢思想」の発見。

## 1. 鈴木大拙とその評価

### 1.1. 鈴木大拙(1870-1966)って誰？ 鈴木大拙の生い立ちとキャリア

#### 1.1.1. 戦前 (1893-1944), 仏教の近代化・世界化

##### 1.1.1.1. 仏教の近代化＝仏教を寺院から、日本から出すこと。そのために

###### 1.1.1.1.1. 1 本質主義＝「仏教の本質へ戻れ」

###### 1.1.1.1.2. 2 ハイブリッド＝科学や哲学を受容しなければならない

###### 1.1.1.1.3. 3 国際化＝海外への布教＝能動的な国際化

###### 1.1.1.1.4. 1や2の過程を経ると、世界一のすばらしい宗教ができて、欧米人も競ってとびつくはずだ、という仮定があった。

##### 1.1.1.2. しかしヨーガが先に欧米へ流入していた

###### 1.1.1.2.1. もともと「行」の文化がなかったプロテスタントの地域に、近代になって

###### 1.1.1.2.1.1. 1 催眠術→マインドキュア→クリスチャン・サイエンス→デルサルトシステム (フランスの音楽教師フランソワーズ・デルサルトが体系化した、身体を表現的に動かすための理論(現代美術用語辞典))という西洋側の心身技法の創造があった

###### 1.1.1.2.1.2. 2 そこに、ヴィヴェーカナンダ(1863-1902)のような哲学的ヨーガが入ってきて、「本質主義+ハイブリッド+国際化」を成功させた

###### 1.1.1.2.1.3. 3 いっぽう一般的なヨーガ行者は「お客様本位」、交霊会や占い等、スピリチュアルの隙間産業を形成していた。層が厚い。

###### 1.1.1.2.1.4. これに対して日本の仏教は2だけ持っていこうとしていた。ムリ。

- 1.1.1.3. シカゴ万国宗教会議(1893年)＝近代に於ける宗教間対話の嚆矢.
  - 1.1.1.3.1. ここで鈴木大拙は近代仏教（この時期から現在までの日本仏教）
    - 近代仏教＝（本質主義＋ハイブリッド＋国際化）＋日本の伝統と生活，を宣明する.
  - 1.1.1.3.2. 1906年に岡倉天心(1863-1913)は“The Book of Tea”（邦訳『茶の本』）で，  
伝統と生活と文化・宗教が一体となった日本のありかたを示す.
- 1.1.2. 西田幾多郎との関係，西田幾多郎の生い立ち，京都学派.  
戦争協力→「華嚴思想」「絶対矛盾の自己同一」「当為にして即自」が全体主義・国家主義にならないようにするにはどうしたらいいのか
- 1.1.3. 妻ベアトリスとの関係，プラグマティズムと神智学（カルティック・ミリューにおける，科学技術と文化・哲学・宗教のグローバルな結合）
- 1.1.4. 1930s-1966年，世界の思想的リーダーの一人として活動
- 1.2. 鈴木大拙の仏教思想の要点
  - 1.2.1. 「非体系的」であること，
    - 1.2.1.1. 学問的でありながら，特定宗派どころか宗門にも偏らずに理論を折衷していった．禅宗と真宗の結合.
    - 1.2.1.2. それを，実践と身体化された伝統（＝少しだけ引きこもった場所での生活）で検証し続けたこと
    - 1.2.1.3. 母親（真宗だが詳細は不明）譲りの素朴な信仰
- 1.3. 日本的「靈性」の発見.
  - 1.3.1. 言葉にできない何か尊いものが，人間の中にある．  
それゆえ，個が類に優先する.
  - 1.3.2. 昭和天皇へのご進講，日本の学問と社会・文化への影響.
  - 1.3.3. ロックフェラー財団によるアメリカへの招聘，エラノス会議（スイス・アスコナ，1933-）の運営.
- 椅子に座ったままする体操その2
  - 🚩 両手の指を，ある順序に従って，ゆっくり軽く引っ張って伸ばす.
    - ◇ 脳の緊張を調整する
    - ◇ 背骨と骨盤を調整する.

## 2. 金沢思想の過去と現在

### 2.1. 現代世界における金沢思想の評価

#### 2.1.1. 鈴木大拙はどうしてカリフォルニアに受け入れられたのか

2.1.1.1. 1850s-1970sにおける「医地理学（環境医学）」と「エコロジー」の伝統、「人間—自然」複合体という人間観の理論的・実践的根拠となった。同時に入っていった日本の各種「療術」＝身体技法の影響。

2.1.1.2. 1950s-1970sのカルティック・ミリュー（1980s-）がもたらした、チベット仏教など新しい宗教・スピリチュアリティとニューロサイエンス（脳神経科学）との結合

- 「脳—身体—環境」複合体という人間観の出現。
- 日本の伝統的身体技法と世界の伝統的身体技法の出会い。
- 「禅」「仏教」「マインドフルネス」への、IT関係者などビジネスマンの実存的・身体的・意識的（サイコスマティック）な希求。
- 「日本的靈性」の受容。
  - 🚩 脳—身体—環境（諸伝統、諸地域・社会、自然、宇宙）の関係性のなかに生起する「自己—意識」は、
    - ☆ それら三要素に物質的に依存するが、どれにも従属しない、自立—自律する存在である、という解釈。
    - ☆ それを支える身体技法（禅・日本の伝統的身体技法など）。

3. 2019年日本における金沢思想とその未来：金沢思想の要点である「脳—身体—環境」複合体と「靈性」の関係は、現代日本でどう理解されてきたか

- 学問・社会・文化の伝統(1970年代以降の「団塊の世代」)。
- 日本とアメリカの違い：「土着性」と「伝統宗教」に根ざした感覚の有無。
  - プラスティック・ヒーラー
- それらが持つ問題点
  - 「近代の超克」論(1940-)に於ける「靈性」と「国家」の結合
    - ☆ それを支える一部の学問関係者、「連合赤軍事件(1971-72)」「オウム真理教事件(1988-1995)」等との関係（「靈的革命」言説が今も公然と横行する）

- 2019年現在の東京、2020年以降に想定されている新しい政治経済・文化状況を踏まえた大学人・起業家・地域作りの専門家の関係の進展,
  - 「マインドフルネス(2000s-)」の吸引力
  - 「経済のスピリチュアリティ(1980s-)」「引き寄せの法則(1990s-)」信仰
  - 帰国子女・バイリンガルのアイデンティティ・クライシス, 認知言語学.
  
- 3.1. 「日本的靈性」再考：伝統によるこの問題への対処はありうるか？
  - そもそも「日本的靈性」論は、鈴木大拙—西田幾多郎による、「近代の超克」論（個に死して類に生きる）への反論（個こそ尊い）でもあった.
  - 現代の表象文化、特に映画・アニメへの「映像文法」の視点からの考察.
    - 認識論的変曲点としての2010年代, 2019年.
    - エネルギーで混沌とした2020年代の到来.
  
- 3.2. 金沢思想と金沢の関係
  - 金沢という風土には、22世紀へかけて、どんなビジネスを生み出す可能性があるのか？
    - 🚩 新しいカルティック・ミリュウの到来. 海洋世界と陸上世界との結節点
    - 🚩 根拠地論（地理的・地政学的・思想的）＝揺るがぬ生活と文化の基盤
  
- 体操 スワイショウ（気功体操の一つ）を2種類
  - 🚩 通常のスワイショウ
    - ◇ ある立ち方で立って、軽く腕を振る
      - 100回で心身の気血の巡りが良くなり、気がスッと丹田に集まってくる.
      - 1000回以上するといい、とされるが、100回でも心身の変容がある.
  - 🚩 捻るスワイショウ
    - ◇ ある立ち方で立って、あるやり方で軽く捻る 同上
  - 🚩 時間があればもう1-2種類、全体の体操をする